

図書館を去って

前 姫路市立城内図書館長 宮下 博

昭和42年に姫路市に奉職以来、今日まで38年間にわたり保健衛生、民生、企画、農政、教育行政の各部門に携わってきました。この間、良き先輩、同僚、後輩に恵まれ職務を全う出来たことに感謝の気持ちで一杯です。

最後の9年間は、図書館にお世話になり、私の公務員生活の約4分の1を過ごしました。

生涯学習の場としての図書館の役割は極めて大きく、市民生活の上で欠くことのできないものであり、情報提供の拠点施設としての重要な任務を担っています。

平成12年に館長に就任してからは、「市民に愛され親しまれる図書館づくり」を目標として、窓口サービスの充実を掲げ、利用者一人ひとりに声かけをする、親切丁寧な窓口対応を第一の目的として図書館サービスに努めました。

近年の経済情勢と市民の利用ニーズも高まる中で、平成13年度から平成14年度にかけての2年間で、開館日数の増加、開館時間の変更、そして、貸出冊数を4冊から6冊に増やしたことにより、利用者数約1万3千人、貸出冊数は約44万8千冊と驚異的な伸びを見ました。これも職員が利用者の意見・要望を的確に捉えた上、日々の努力、理解、協力により成し遂げられたものと考えています。

また、この時期にブックスタート事業が全国的に拡がり、本市でも独自の事業として「よちよち文庫事業」を実施することになり、関係各課と協議し「姫路市の絵本を楽しむネットワーク」を設置しました。その中で、赤ちゃんに勧めたい絵本の選定を行い、小冊子「よちよち文庫～あなたの赤ちゃんにすすめたい20冊～」を作成、絵本の紹介だけでなく、読み聞かせのアドバイスを盛り込み、赤ちゃんの出生届時に市民課等の窓口で配布しました。

当初20種の絵本でスタートした「よちよち文庫」は、その後120種類1万冊に増やして各館に配架し、利用者に供しました。この文庫の絵本は毎月6千から7千冊の利用があり、赤ちゃんは勿論、お母さん、お父さんにも喜ばれています。全職員が一致協力して取り組んだこの事業は、私も図書館生活の中で最も脳裏に残る事業のひとつであったと思っています。

いま、利用者からのニーズの多様化により様々な要望や困難な事柄が増えてきています。これらの対処には職員自ら姿勢を正し、常に危機管理、安全管理意識を頭の隅に置き図書館サービス並びに施設管理に努めなければならない時代になっています。

いよいよ来年3月末には一市四町の合併による新姫路市（人口50万都市）が誕生し、市域の面積も2倍と広範囲となります。その上、図書館にも指定管理者制度が導入されようとしています。ますます厳しい図書館運営を強いられますが、新体制でより充実した内容の図書館サービスに努められることを期待しています。

分館のオープンとその前後

三田市立図書館ウッディタウン分館 大崎 剛

平成17年6月1日、三田市立図書館ウッディタウン分館がオープンしました。

これにより、三田市立図書館は、本館・分館・分室の3館体制による運営へ移行することになりました。

三田市では、これまで単館体制ながら、年間90万冊を超える貸出があり、土曜、日曜日のカウンターの混雑や駐車場の不足が慢性化していました。そこで、本館の補完的な役割をする施設として、数年前から市域中央部のニュータウン地区への分館の設置計画が進められてきました。

そして、いよいよ平成17年度オープンと事業計画が決定し、準備作業が本格化してからは、ハード面については、建築の進行状況に合わせて検討を進めました。

しかし、運営や体制などの検討に時間を要したことで、肝心の資料購入作業の開始が、大幅に遅れてしまいました。そのため、前年8月からの約半年間で、資料の選定、発注、検品、データ点検、書架割り、配架などをす

べて行う強行スケジュールとなり、昨年度の後半は、図書館の全職員が目の回るような忙しさでした。

何とか無事に準備が整い、開館を迎えた日には、職員全員が係わって、自分たちの力で造り上げた分館の誕生に、心から感動し、喜びあいました。

ウッディタウン分館は、同時にオープンしたウッディタウン市民センターの1階に併設されています。開架室は、約769㎡の広さがあり、約6万冊の収容能力があります。これは、三田市立図書館（本館）の開架部分と、ほぼ同じ規模です。

ただ、財政状況など様々な理由から、蔵書数約3万冊（一般書2万冊、児童書1万冊）、開館は週5日（月・火休館）、本館と同じ午前10時から午後6時まで、というスタートになりました。

このウッディタウン分館が、市民、そして地域住民のみなさんに喜んでもらえるか、温かく受け入れてもらえるか、不安もありましたが、開館から1カ月間の様子から、たいへん好意的に受け止めていただいていることが判りました。

カウンターで、「歩いて来られる（近い）ところにできて良かった」と、年配の方に喜ばれたり、たくさん絵本を借りられるお母さんには「別の館で借りた本も（近くで）返せるのが便利」と、褒められたりすると、本当に嬉しくなります。

6月の利用状況（22日間）は、貸出冊数が37,081冊、新規および期限更新登録者数が1,550名、予約件数が3,569件でした。これは、配属されている分館職員の頑張りだけではなく、本館と分室からの厚いサポート体制に支えられて達成できた数字ですが、統計的にも、当初の予測を上回る好調なスタートを切ることが出来ました。

これは、市民に分館の設置が待望されていたこと、また図書館に対する期待の大ききの証しであろうと思います。ますます、図書館を利用する市民が、本当に要望していることは何なのかを、しっかり把握し、期待に応えていく図書館運営が必要であることを、改めて認識する機会となりました。

今後も、利用者や多くの市民に愛され、時には厳しい意見を受け、時には温かく励まされながら、市民とともに、日々、成長していく図書館であるよう、3つの館の全職員で力を合わせて頑張りたいと思います。

新たな図書館運営を目指して

稲美町立図書館 NPO法人ライブラリーCOSMO理事長 山本ひとみ

平成17年4月に、稲美町立図書館の指定管理者となって、早3ヶ月が過ぎました。本図書館は、平成4年11月にホール・公民館の3館複合施設としてオープンし、建物も円形のドーム様式で、町内はもちろん近隣市町の学びの場であり、憩いの場となっています。稲美町は、ため池が点在し、お米やいなみ野メロンなどが有名で、交通の便も良く、神戸市や加古川市に隣接し、のどかな田園地帯が広がった人口3万3千人ほどの町です。そして他市町より群を抜いて高齢化の進んでいる地域でもあります。特に、近年町内におけるボランティア活動は、目前に迫る団塊の世代の定年や、子育ても一段落し再び社会へ出て行こうとしている人たちの、いきがいづくりの場として盛んになっています。図書館では、平成15年度より図書館の配架などを手伝う有償ボランティアが誕生し活発な活動を行い、そして夏期には9時まで開館延長するなど、使いやすい図書館へと変わっていきました。多くの人たちの活動の場所として定着し、ボランティアの登録者数も90名を超え、図書館が住民の活動の場所として町内外でも広く認知されるようになってきました。

このようななかで町が目指す、協働と参画の一環として、将来稲美町をNPO・ボランティアの町にし、多くの人たちが町の事業にかかわって欲しいという思いと、指定管理者制度という国の政策ともあいまって、図書館に熱い思いを持つ有志のメンバーで平成16年7月NPOを設立しました。公募により指定管理者となり、新しい地域に根ざしたまちづくり・図書館運営のスタートとなりました。

一番大変でかつ心を砕いたのは、これから一緒に仕事をしてくれる‘人’を探すこと、そしてかかわる人たちがいかに気持ちよく、楽しく働くことができるかということでした。NPO法人とはいえこれだけ大きな事業をするのですから、人件費は当然かかるのです。町の指定管理者に対する期待と現実が起こってくる問題と格闘しながら、一つ一つ積み重ねていきました。生みの苦しみが大きければ大きいほど抱く夢も大きく、公共の図書館でありながら、NPOとしての利点を図書館運営に最大に生かす方法を日々模索しながら、最小限の資金の中で一番いい形に仕上げていこうという意気込みでスタッフ全員が取り組んでいます。やりたいことはたくさんあり

ますが、今年はまず、より多くの子ども達が図書館を利用しやすいようにとの思いから、「はじめての絵本運動」や子ども自身による「選書会&絵本ライブ」をはじめとして0歳から小中学生までを対象とした様々な事業に取り組んでいます。

嬉しいことに民間になったということで、多くの方たちが気軽に図書館の事業にかかわってくださるようになりました。既存のボランティアグループに加え、図書館を活動の場所にさせてほしいと新しいグループも立ち上がり、少しずつですが活動は広がりをを見せています。3ヶ月たって私たちが目指す道は少し見えてきました。「明るくなったよ、来やすくなったよ。」と声をかけてもらい、皆も「大変だけど、さあ頑張ろう。」と明るく互いに声を掛け合いながら取り組んでいます。まだまだ分からないこともたくさんありますが、近隣の図書館の方々にも助言を頂き、利用者もスタッフも共に成長できる居心地の良い理想の図書館に向かって頑張っています。どうぞよろしくお願いいたします。

平成17年度 図書館等職員研修講座（館長研修） 「図書館の評価と経営 －NPMの視点から－」

大阪市立大学大学院助教授 永田潤子氏

図書館に限らず、いま行政（公共施設）にどのような改革・変革が求められているか、またいかなる論理で行政改革が進められているのか、という理解を深めることが重要であるという前提で、「行政経営とNPMの基礎」に関する解説があった。そのなかで民間企業と公共組織との違いについて、公共組織においては税金の先取りをしているためフィードバック機能がなく、また「地域」や「供給」が民間と違い独占状態にある。これらの違いのためイノベーション（革新）が起これにくく、経営品質の劣化（住民意識と乖離）する可能性が高い。このような組織をマネジメント（経営）していく上で重要なことは、ニーズを把握するために「評価システム」を強制的に起こすことと、その組織の「使命・目的」＝「誰の為に、何を目指して何をするのか」をしっかりと見定めること。そして、その使命に基づき「戦略」・「組織構造」等の組織マネジメント要素を有機的に結びつけることが必要だ。図書館サービスを考えるうえで「顧客はだれか？」という問題意識のもと、ニーズの高い課題に図書館資源を効率的に配分する必要がある、と指摘された。

また、図書館の指標として貸出冊数がよく取り上げられるが、「図書館の存在意義は何か？」を突き詰めたとき、貸出冊数が「何ををはかる指標なのか」が整理できていないのではないか、と講師から核心をつく疑問が投げかけられた。「図書館をめぐる評価」については、「ISO11620」や「イギリスの公共図書館基準」等に触れ、個々の評価システムの特徴を解説するだけでなく、NPMの視点から分析がなされた。

研修の後半は、いま注目されている「ビジネス支援」をしている各図書館の取り組みが紹介された。ビジネス支援といっても様々なパターンがあり、それぞれの図書館が持っている資源や環境により、「使命・目的」の立て方が当然違ってくる。

現在、指定管理者制度の問題点として、行政処分を指定管理者に代行させることへの危惧、仕様書のしぼりにより経営努力の芽が摘まれること等指摘された。

図書館の使命は何か、それぞれの図書館が問い直し、それによりどのようにマネジメントするべきか考えさせられる研修会であった。（神戸市立中央図書館 石田 有邦）

協会からのお知らせ

平成 17 年度全国公共図書館総合・経営部門研究集会

新時代の図書館経営 ～市民は図書館に何を求めているか～ 平成 17 年 11 月 10～11 日 兵庫県民会館

第1日目 11 月 10 日 (木)

12:00	13:00	13:20	14:50	15:00	17:15	18:30
受付	開会式	基調講演	休憩	事例発表 ①②③	休憩・移動	情報交換会

第2日目 11 月 11 日 (金)

9:00	11:00	11:10	11:40	12:00
全体会 (パネルディスカッション)	休憩	情勢報告	閉会式	

基調講演

テーマ 「『連想する場』としての公共図書館リファレンス」 講師 高野 明彦氏 (国立情報科学研究所教授)

事例発表

- ①「図書館への指定管理者制度導入の経緯とその後の状況」 北九州市立中央図書館庶務課長 小田口司氏
- ②「PFI手法による図書館、その1年」 桑名市教育委員会生涯学習課長 大塚由良美氏
- ③「公共図書館経営の一視座～情報化と連携」 市川市中央図書館主幹 松本雅貴氏

全体会

パネリスト 岡山県立図書館総括参事兼資料情報課長 菱川廣光氏
愛知県田原市図書館長 森下芳則氏
島根県斐川町立図書館長 白根一夫氏
コーディネーター 日本図書館協会常務理事・事務局長 松岡 要氏

※ 閉会后、希望者には港務艇での神戸空港予定地の視察を予定しています。多くの図書館関係者が参加され、これからの図書館経営に役立てていただければと思います。

全公図・兵図協からの表彰

○平成 17 年度全国公共図書館協議会表彰(敬称略) 小野田正憲 元佐嘉子 金城可津美 (以上神戸)
溝口めぐみ (県立)

○平成 17 年度兵庫県図書館協会表彰(敬称略)

功労顕著 大島秀一 (西宮) 堀田忠良 (加古川) 宮下 博 (姫路)
永年精勤 堀口尚之 波多野麻里 村井博之 益田ゆか (以上神戸) 藤野高司 (宝塚) 夏目美紀 (川西)
白髭和子 (三木) 林 裕子 谷口智恵 朝見和美 (以上姫路) 平岡明美 荒川信子 (以上県立)

加入館等の紹介

○その他

福崎町立図書館 (新設) 〒679-2212 神崎郡福崎町西治 360-1 TEL 0790-22-3780 館長 榎倉執子
三田市立図書館ウッディタウン分館 (新設) 〒669-1321 三田市けやき台 1-4-1
TEL 079-565-2236 館長 野田耕一

平成 17 年度大会等の開催予定

○IFLA 第 71 回オスロ大会 8 月 14～18 日

○全国図書館大会（第 91 回）茨城県水戸市 10 月 26～28 日

○全国公共図書館研究集会

・サービス部門 徳島県徳島市 10 月 6～7 日

・総合・経営部門 兵庫県神戸市 11 月 10～11 日

○近畿公共図書館協議会研究集会 担当：京都府立図書館

○文科省・図書館地区別研修(近畿地区) 日程：平成 18 年 2 月 7～10 日 会場・担当：和歌山県立図書館

○絵本ワールド in ひょうご 2005

日時：平成 17 年 11 月 5～6 日 場所：原田の森ギャラリー（王子動物園前）（神戸市灘区原田通 3-8-30）

平成 17 年度の役員紹介 （※は異動による新任者）

会 長 芦田弘逸（県立）

副会長※清原幹雄（県立） ※平田隆夫（神戸） ※河内賢明（西宮） ※中 良三（加古川）

理 事 芦田弘逸（県立） ※平田隆夫（神戸） ※河内賢明（西宮） ※池宗英明（尼崎）

※中 良三（加古川） 石井靖彦（明石） ※西本一繁（姫路） 杉岡和弘（香寺）

※藤井保雄（朝来） 近藤任弘（洲本） 長澤一正（篠山） 足立忠尚（県議会）

監 事※村上孝三（伊丹） 前田武弘（赤穂）

平成 17 年度予算 総額 1,467,570 円 ―予算の内訳―（主な項目）

通信連絡費 70,000 円 研究集会費 160,000 円

消耗品費 60,000 円 会報発行費 100,000 円

会議費 20,000 円 表彰費 80,000 円

総会費 30,000 円 事業特別会計費 100,000 円

調査・情報活動費 240,000 円 全国公共図書館分担金 50,000 円 予備費 557,570 円